

# 飛鳥の 明日香の里を 置きて去なば

## 君があたりは 見えずかもあらむ

〔一は云はく、君があたりを 見ずてかもあらむ〕 作者未詳 卷一・七八

私は、大学院生の頃、去ることへの郷愁もま  
平城宮跡の近くで暮ら た、夢のことでしょう。  
しており、平城遷都1 この歌は、歌の状況を  
300年祭の行事にも 説明した題詞には、7  
楽しんで参加したもの 10(和銅3)年2月  
です。かつての遷都を に藤原宮から平城宮に  
記念して祝うように、 遷都する際、長屋の原  
新たな都への遷都は心 (現在の天理市西井戸  
躍るものだったに違い 堂町・合場町付近か)  
ありません。 に御輿を止めて、故郷  
一方で、遷都に伴っ を思っ作ったとあり  
て、住み慣れた土地を ます。時期や状況から、

やまと  
万葉がたり

元明天皇の歌と考える 説があります。元明天  
皇は女性で、夫の草壁 皇子は飛鳥で亡くなっ  
ており、高取町佐田に ある束明神古墳がそ  
の墓ではないかと言わ れています。飛鳥・藤  
原の地を離れること で、亡夫の眠る地が見  
えなくなることの寂し さを詠んだのでしょう

【訳】飛ぶ鳥の明日香の里を後にしていったなら、あなたの  
いるあたりを目にすることができなくなってしまいうらうか  
〔一ハ云ワク、あなたのいるあたりを見ないでいることにな  
ろうか〕。

の歌とする解釈もあり  
ます。しかし、この説  
には疑問があります。  
古代、天皇は南を向い  
て政治に臨むことにな  
っていましたが、藤原  
宮の南正面には天武  
天皇陵があるからで  
す。藤原宮に遷都した  
持統天皇にとって、天  
武天皇の眠る地は、理  
念的には真正面にあっ  
たのです。このような  
状況で、持統天皇が  
この歌を詠むとは、私  
にはどうしても思えま  
せん。

か。  
ところが、この歌に  
は、「太上天皇御製」  
とする注記があるこ  
となどから、持統天皇  
が飛鳥浄御原宮から  
藤原宮へ遷都する際  
この歌を詠むとは、私  
には思えます。  
（県立万葉文化館研究  
員・吉原啓）  
|| 原則、隔週掲載

# 来て見べき 人もあらなくに 吾家なる

## 梅の早花 散りぬともよし

作者未詳 卷十・二二二八

そろそろ梅の季節でしようか。奈良市内に住んでいた頃、道に迷った先で人けのない小さな神社にたどり着いたことがあります。その境内には、奇麗な梅の花がひっそりと咲いていて、道に迷っているのも忘れて見とれてしまいました。規模の小ささから奈良市の菅原大満宮とも思えず、場所をよく記憶してい

なかったこともあり、もう一度見に行くことができないでいます。この歌は、自邸の梅が初花をつけたにもかかわらず、訪れて共に見てくれる人もいない。それならば散ってしまうてもかまわない。という歌ですが、もちろん本心ではないはず。自邸の願いとは逆のことを歌うことで、かえって思いの

## やまと 万葉がたり

強きが伝わってきます。この歌には、恋人に送った歌とする解釈もありますが、宴席で自邸の梅の初花を誇った歌とも考えられています。いずれにしても、人に見られることのない自邸の梅を見てほしいという心の表れでしょう。

私はこの歌にふれた時、前の仕事を退職する際に研究者の先輩か

ら言われた言葉を思い出します。

…共に歴史学研究を志す立場から送られたエールでした。

「誰も見ていなかったとしても、毎年花を咲かせ続けなさい」  
どんなに小さな研究でもいいから、誠実に研究に向き合っていきなさい。そうすれば、いつか誰かの目にふれることもあるだろう。

【訳】来て見てくれる人もいないのに。わが家の梅の初花は、散ってしまってもよい。

れることなく散ってしまったも、それはそれで良いのかもしれない。

さて、この原稿を書きながら、冒頭で紹介した小さな神社の梅を見に行きたくなりました。梅の名所も良いですが、今年はずいずりと隠れるように咲いている梅を見に行こうと思います。  
(県立万葉文化館研究員・吉原啓)  
|| 原則、隔週掲載